

防 災

災害に強いまちづくり

飲み水・食料等の確保を！

梁瀬 里司
(黎明21)

問 4月に発生した熊本地震では、震災直後の1週間程度は、水の供給や食料が十分ではなかった。本市では、どのような対策を想定しているか。

答 行田市地域防災計画では、最大震度7の想定に基づき、最大避難者約1万4700人を想定。災害時は、飲み水や食料等の不足が予想されるため、各家庭で最低3日分の備蓄をお願いしている。市は、飲料水として、保存水（500ml）約1万5千本、市内浄排水場5ヶ所の水約1万8千kl、食料として、2日分約5万4千食を備蓄しているが、不足が生じる場合は災害時応援協定により調達する。

問 飲み水について、災害時に備え公園や避難所に井戸を掘っておくことも必要と考えるがどうか。

答 井戸の設置については、設置や維持管理、定期的な点検など費用対効果の面から難しいと考える。



備蓄食料・飲料水

●小中学校の屋外トイレ整備
●小中学校体育館や校庭等の屋外トイレについては、「臭い」「汚い」や、男女別になっていないトイレでは「恥ずかしい」「利用しづらい」という声を聞く。地域住民も利用するため、トイレ改修が必要と考えるがどうか。

答 屋外トイレでは、小学校11校が男女別のトイレになっていない。今後、老朽化に伴い、屋外トイレを改修する際には、地域の皆様が利用することも考慮しながら、男女別トイレの設置など具体的な改修内容を考えていく。

〔その他の主な質問〕

- 企業誘致
- 給食費無償化
- 古墳サミット開催
- 利根川土手の活用

防 災 対 策

大規模自然災害への備えについて

加藤 誠一
(黎明21)

問 防災備蓄倉庫の主な装備は。

答 想定避難者の約2日分の非常食約5万4千食や保存水（500ml）約1万5千本のほか、毛布や肌着、投光器、発動発電器、テント、担架等を装備している。

問 地域の自主防災組織が整備すべきものは何か。装備品購入等への助成制度はあるか。

答 初期消火や負傷者の救出、安否確認等のため、消火器やヘルメット、ポリバケツ、担架、毛布、スコップ、テント等の装備が望ましい。現在装備品購入に対し10万円を限度に1回限りの助成を行っているが、追加補充や組織強化の観点から新たな助成制度を早急に検討していきたい。

問 魅力あるまち並み・景観づくり

答 行田らしい景観とはどのようなものか。

答 平坦で広々とした地形による河川や田園などの自然、埼玉古墳群、忍城址を初めとした歴史的景観である。

問 景観保護には観光資源、都市計画、緑化等多面的な側面がある。行田ならではの歴史的景観や屋敷林、生け垣等の自然景観を保護するための施策は何か。また景観条例制定の取組状況は。

答 景観保護には市民の自発的行動や行政との役割分担など理解と協力が必要であり、市報やホームページで啓発に努めている。景観条例制定については規制や制限も伴うため、ワークショップ等で意識の醸成を図りつつ、引き続き調査研究していく。

〔その他の主な質問〕

- 無電柱化（電線類地中化）

子 育 て

保育所昼寝用ベッドの導入について

二本柳 妃佐子
(公明党)

用ベッドを導入し、子どもたちが健康に過ごせる保育所環境を提供している。本市の保育所での昼寝の状況は。

答 公立保育所では、午後1時から3時までを昼寝の時間とし、保育士が布団を敷き昼寝をしている。敷布団、毛布、バスタオル、パジャマなどは、保護者が週の初めに持参し、週末に持ち帰っている状況である。

問 集団生活における衛生面、感染症対策は。

答 国の保育所における感染症対策ガイドラインに沿って行っている。保育所内においては、日頃からアルコール消毒などの予防対策を行い、感染症になった場合は、医師の許可があるまで登園を見合わせている。

問 昼寝用ベッドの導入について市の考えは。

答 ベッドは床に直接触れないため衛生面や健康に良い。また、保護者の負担軽減にもつながる。先進自治体の取り組みを調査研究し、保育所の衛生管理対策の充実に努める。

問 様々な感染症の発生は、集団生活における問題となっているが、上尾市では、昼寝